

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0873800718		
法人名	株式会社 モデナ・ケアサービス		
事業所名	グループホーム わかぐり		
所在地	茨城県稲敷郡阿見町鈴木136-3 (電話) 029-891-2300		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	平成21年3月23日

【情報提供票より】 (平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月11日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤 20人、非常勤 6人、常勤換算	12.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての 1～3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	28,350 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

(4) 利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数	27 名	男性 7 名	女性 20 名
要介護1	5	要介護2	6
要介護3	10	要介護4	4
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 79.4 歳	最低 58 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	滝沢医院、神立病院、つくば双愛病院、ぬまじり歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは家庭的な環境のもと、職員は家族の一員としての心構えで利用者が安心して日常生活ができるよう支援している。
ホームの自家菜園で季節の野菜作りや収穫を利用者と共に行い、安心・安全な食材を食卓に提供している。
利用者の認知症進行予防策として毎週学習療法を取り入れている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 家族等への報告については、運営推進会議の意見を踏まえ「わかぐり新聞」を発行し、利用者の暮らしぶりが家族に伝わるよう改善している。 重度化や終末期については、利用者や家族と同意書を交わすなど改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 施設長や管理者を中心に全職員で自己評価を作成するとともに現状を認識し、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議はホーム職員のほか、区長や民生委員、町職員等を委員とし2ヶ月に1回開催している。 会議ではわかぐり新聞や納涼祭、地域イベントなどについて話し合いホームの運営に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関口と1～3階の各フロアに意見や要望等の記入用紙を備えて意見箱を設置している。 家族等の面会時に意見や要望などを言えるよう配慮している。 重要事項説明書等に苦情相談受付窓口は明確にしているが、第三者機関の苦情申立受付窓口の記載がないので明記するとともに家族等に説明することを期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの納涼祭や地域の夏祭り、子ども会行事、小学校の運動会へ参加するなど地域の人々と交流している。 年間のボランティア活動プログラムを作成し、大正琴やアートフラワー、歌、踊りなどのボランティアが定期的に訪れ、利用者も楽しみながら交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境のもとで、日常生活の介助を通じて安心と尊厳のある生活を営むことを支援する」との独自の理念を掲げているが、ホーム開設時から変わらず地域密着型サービスとしての理念の見直しはしていない。	○	地域密着型サービス基本方針の一つである地域住民との交流は実際には行われているので理念の文言の見直しを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務長や施設長を含む全職員が名札の裏に理念を記し、常に理念を念頭におきながら利用者を支援している。 また、家族や来訪者にもホームの理念を理解できるよう玄関や各階の共用空間に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの納涼祭や地域の夏祭り、子ども会行事、小学校の運動会へ参加するなど地域の人々と交流している。 また、年間のボランティア活動プログラムを作成し、大正琴やアートフラワー、歌、踊りなどのボランティアが定期的に訪れ、利用者も楽しみながら交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長や管理者を中心に全職員が自己評価を作成するとともに現状を認識し、サービスの質の向上に活かしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はホーム職員のほか、区長や民生委員、町職員等を委員とし2ヶ月に1回開催している。 会議ではわかぐり新聞や納涼祭、地域イベントなどについて話し合いホームの運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム運営での困りごと相談や報告等で町と連携したり、地域包括支援センターの拠点である社会福祉協議会が利用者の生活状況の確認などで来訪するなど、町関係者からの意見を参考にサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回季節ごとに「わかぐり新聞」を発行し、利用者の暮らしぶりを報告している。 生活費を預かっている利用者については、利用料や金銭出納の報告書を添えて家族等に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関と1～3階の各フロアに意見や要望等の記入用紙を備えて意見箱を設置している。 家族等の面会時に意見や要望などを言えるよう配慮している。 家族等に苦情相談受付窓口を明確にしているが、外部苦情申立機関の表示がない。	○	重要事項説明書等に第三者機関の苦情申立受付窓口を明記するとともに家族等に説明することを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は必要最小限に抑えるとともに離職があった場合は利用者や家族等に説明している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム組織に施設長を責任者とする「教育研修課」を設けて毎月勉強会を開催し、職員の介護技術の向上を図っている。 外部研修受講者は、定例勉強会で報告研修をしている。 新人教育研修や現任研修など教育研習マニュアルづくりに取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に加入するとともに、定期的に相互訪問の交流会を実施しサービスの質の向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者や介護支援専門員、看護師が利用前に家庭訪問をし日々の生活状況を把握している。 利用希望者にはお茶のみや体験利用などでホームに馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から食事作りや生活の知恵を教してもらったり、昔の歌や戦争時の話などの会話をしながら支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者がどのような暮らし方を望んでいるのか生活歴で把握し、趣味などを活かせるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族、医療関係など必要な関係者と話し合い、基本情報を把握したうえで3ヶ月の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々申し送りノートを活用し利用者の変化に注意をはらい、状態に変化が生じた場合はカンファレンスを行い、家族等に説明し同意を得て現状に即した介護計画に見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	支援の必要性がある利用者が退去する場合は自宅での食事づくりや買い物などのプログラムを作成し支援をしている。 また、利用者の認知症進行予防策として毎週学習療法を取り入れている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内のかかりつけ医への受診は、職員が無料で送迎支援をしている。 受診結果は看護師を通じてその都度家族へ電話やFAX、メールで報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	具体的な支援内容を記載した「看取り延命に関する指針」を作成し、関係者全員で方針を共有している。 延命処置に関しては文書で家族や利用者の了解印を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は家族の意向を確認し利用者への呼びかけに注意している。 利用者関係の書類は書庫に施錠して保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に聞くタイミングを考慮して毎日声をかけ、利用者の意向を把握しテレビ鑑賞やカラオケ、散歩など希望にそって支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嚥下状態や好みに合わせた食事づくりをしている。 利用者の誕生会や外食会を実施している。 職員は利用者と一緒に食事はしていないが食事支援や見守り支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入ることが可能である。 入浴チェック表を備え、入浴時間帯は定めず利用者の希望にそって適切に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片付け、洗濯物たたみ、自家菜園での作付けや収穫など利用者は持っている力を活かし職員と共に楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は付近を散歩したり、利用者の好みの食材やおやつを職員と一緒に買いに行ったり、季節の花見や地域の行事に出かけるなど外気に触れる支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	階段昇降口転落防止に手動の柵を設置している。 玄関は利用者に危険な外的要因があるため職員が開閉している。 併設の有料ホームへの通路は自由に移動できるようにしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いで避難訓練を実施している。 地域の公園で実施する災害対策に参加している。 非常時に備えて米、水、缶詰、炭などを準備している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に病院で栄養指導を受けるとともに、週間献立は栄養士のチェックを受けている。 主食・副食、水分の摂取量や排泄のチェック管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各階ユニットのフロアの一画に畳敷きを設けたり、炬燵やソファを設置し利用者の好みで寛げるよう配慮している。 ホールや通路にホーム行事の写真などを掲示し、明るい雰囲気づくりをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は備えつけのエアコンやタンス以外は利用者の好みでレイアウトができることを利用契約時に利用者や家族に話しをし、部屋を自分の好みにつくれる配慮をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。